

横浜市立 権太坂小学校 学校評価報告書 (令和4～6年度)

重点取組分野	令和4年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	【言葉による見方・考え方を働かせることで、相手意識・目的意識をもち、自分の思いや考えを表現する能力を育成します】言語環境を整え、言葉による見方・考え方を働かせることができる言語活動を行うことで、どの教科でも適切に自分の思いや考えを表現できる力を育てていきます。	言葉による見方・考え方を働かせる言語活動を行うことで、児童の言葉への関心が高くなり、思いや考えを言葉で表現する力が少しずつ伸びてきている。今後も、児童の語彙を豊かにし、言語能力を育成するために、語彙の量と質に着目して指導していく必要がある。	B
豊かな心	【一人ひとりが居場所をもって生活できる学校・学級をつくります】①ブロック学年、全校活動委員会を中心に全校集会、全校遠足といった縦割り活動を行います。②道徳の授業と日常生活がつながり、生活にいかせるようにします。③各教科の授業を通して、「分かる」「できる」を目指し、互いを認め合う学級風土をつくります。	①ガイドラインに基づく感染症対策を万全にして活動した。様々な仲間と関わることで、自他のよさに気づき有用感をもったり、自分から相手に関わろうとする姿が見られた。②道徳の学習と日常生活での実践場面とのつながりを意識して指導した。日常生活の場面を想起して、自らの行動について考える機会となった。次年度は、日常生活で生かすことができるように指導する。③「分かる」「できる」を実感できるように教材研究し、授業実践に努めた。意図的に認め合う場面を設定し、自己有用感を高めた。	B
健やかな体	【心身ともに健康的な生活習慣を身につけ、健やかな心と体を育みます】①体力向上のために、縄跳びランニングを中心とした体力づくりを継続的に取り組みます。②年1回の学校保健委員会で生活習慣や健康に関するテーマについて取り上げ、日常的に取り組みます。	①体力向上のために縄跳びを中心に体力作り集会を行い、児童に運動の心地よさや楽しさを意識させることで、児童が自発的に中休みや昼休みに縄跳びに取り組む姿が多く見られるようになり、体力向上につながった。②学校保健委員会や各種委員会の取り組みで生活習慣や健康に関する取り組みを行い、児童の意識が高まりが見られた。	B
地域連携 学校運営協議会	【地域と連携しながら、地域の一人としての子どもを育てていきます】①地域の「人、もの、こと」と関わりあいながら、授業づくりを行います。②学校運営協議会を中心として、地域の意見を取り入れながら、より充実した教育活動を行います。③学校だよりやホームページ等を活用して、学校での取組を地域に広く発信します。	①「ふれる」をキーワードとし、主に生活科、総合的な学習の時間を中心として、地域の人材、施設等と関わりながら授業づくりを行った。地域との関わりを学校全体で共有できるようにリストを作成。令和5年度以降の授業づくりに活用していく。②保護者、学校運営協議会委員の方々の学校の評価アンケートを実施した。集約したものをものに令和5年度の教育活動を計画していく。③学校だよりを通して教育活動の様子、子どもたちの様子を発信した。学校ホームページでの即時的な情報発信の在り方について探ってきたい。	B
児童理解	【家庭などと連携を図りながら、児童理解をします】①家庭訪問、個人面談、懇談会などで、児童の様子や情報を交流しながら、児童・保護者の思いや願いを聞き取り、実際の指導に生かします。②多様な児童に対応するために児童理解に関する研修等を行います。	①地域訪問・個人面談・懇談会を中心に、家庭や地域、キッズクラブなどと連携を図りながら、保護者の思いを聞き取った。また、定期的に児童一人ひとりと担任が話す時間を作って児童理解に務め、実際の指導に生かした。②児童理解研修、特別支援計画作成研修、不登校理解研修など、様々な側面から児童理解に関する研修を実施した。	B
いじめへの対応	【いじめを未然に防止するとともに、いじめに対しては迅速に組織として対応します】①日頃から児童理解に努めるとともに、いじめアンケート、YPアンケート、いじめ防止対策委員会を活用し、いじめを未然に防止します。②いじめ防止基本方針を全教職員が共通理解し、組織的に対応します。	①職員全体で、日頃の児童の変化に気付けるよう掛けた。いじめアンケート(年2回)、YPアセスメント(年2回)を実施するとともに、毎月いじめ防止対策委員会を実施し、いじめの未然防止に務めた。②いじめ防止基本方針は児童支援部を中心に見直しを行い、全教職員での共通理解を行った。いじめが疑われる事案については、対策委員会を開き組織的に対応した。	B
特別支援教育	【一人ひとりの実態や特性に合わせた特別支援体制を整えます】①特別支援コーディネーターや児童支援専任が窓口となり、スクールカウンセラーと保護者をつなぎ、児童や保護者の困り感を軽減していきます。②担任だけでなく、関係職員との情報の共有を図り、職員全体で連携して支援していきます。③療育センターや保土ヶ谷養護学校のセンター的機能の活用など他機関とも連携していきます。④特別支援教室を活用していきます。	①④児童支援専任、特別支援コーディネーターを中心に特別支援教室を組織的に運用した。低学年は担任が、4～6年は級外職員が取り出しによる直接支援を行い、一人ひとりの教育ニーズに応じた支援を実施した。②各ブロック長を中心に、情報を共有し、児童支援専任と連携を図りながら、学年・学校対応ができた。③センター的機能を利用し、保土ヶ谷養護学校の先生を呼んで、特別支援教育研修を実施した。保土ヶ谷による巡回相談を実施。個別別支援センターを中心に、気になる児童の見取りと適切な支援について助言を受けた。	B
人権教育	【自他のよさを見出す子どもを育てます】①地域や社会と関わる体験を通して、様々な人がいることを学ぶ機会を増やします。②たてわり活動を通して、子どもたちが互いを思いやる気持ちを育てます。③教職員の人権研修を行い、人権感覚を高めていきます。	①各学年ごとに、適切な人権教育を行い、地域・社会には様々な人がいることを学んだ。②たてわり活動を通して、異学年の児童同士が互いに思いやりをもって楽しもうとする姿が見られた。③夏季休業中に校内人権研修を行い、人権教育について研鑽を積み、日々の指導に生かすことができた。	B
安全管理 安全教育	【安全管理体制を整えるとともに、子ども一人ひとりが安全に行動できるようにします】①実際の災害に生かせるよう、実践的な避難訓練を行うとともに、毎回の避難訓練を検証し、次の避難訓練に生かします。②各学年の発達段階に応じた安全教育を行います。③警察や消防など、他機関とも連携し、教職員の安全研修を充実させます。	①様々な想定のある訓練を行うことで臨機応変に対応しなればならないという意識づけができた。また避難訓練の検証を踏まえ、トランシーバーの積極的活用など有効性があるものは取り入れた。②事前指導や動画等を通して各学年に応じた活動を行った。③不審者対応訓練では警察と協力し、不審者侵入後の動きを確認し、職員同士の共通理解を図った。	B
人材育成 組織運営	【教職員一人ひとりが教職員としての自覚をもち、自己研鑽に励みます。教職員が子どもと向き合う時間を確保するために業務の効率化を図ります】①学年内で情報共有の時間をとり、様々な課題に対して学年や学校内で組織的に対応します。②権太塾や重点研究を中心とした人材育成を計画的に進めます。③今までの業務を見直し、子どもと向き合う時間を増やします。	①課題に対する組織的な対応はできたが、学年内での情報共有のための時間設定は不十分だった。放課後の時間を生み出すために、目録表の見直し、業務のスリム化、個人の仕事に対する満足度の充実等の工夫を行っていきたい。②権太塾や重点研究の推進により、「学びたいことを学ぶ」ことができたと思う。職員それぞれのキャリアステージに合った研修や研究の場・時間を提示していく。③定時退勤日の設定、ノー会議デーの設定、フレックスタイム勤務の推進等により、会議で拘束される時間は減少した。さらに業務の見直しを推進していく。	B
ブロック内 評価後の 気付き	令和4～6年度の中期学校経営方針に基づき、教職員が教育活動を展開していく上でのキーワードを設定した。令和4年度は「ふれる」。地域で働く方のまちに対する思いに「ふれる」、自然や事象に直接体験して「ふれる」等、本物にふれることにより、子どもたちは思いや願いをもつ。他者に対する感謝の気持ちや「自分ができることは何か」という自己実現への意識が高まり、主体的に考え行動する子どもが育つと考える。令和4年度は、「ふれる」というキーワードのもと、教職員それぞれが個性を生かしながら教育活動を展開することができた。令和5年度は、本物にふれたことにより、「」を目指す教育活動を展開していきたい。		
学校関係者 評価	○授業の中でタブレットを使う場面が見られた。小学校時代にそのような経験をすることは大切。 ○地域の中でどんなものがあるかについて学習する授業があった。 ○実技を伴う授業により教育効果が期待できる。積極的に取り入れてほしい。 ○これからの国際社会では、英語やさまざまな外国語にふれることは大切。まずは外国語を楽しむことができている。		
中期取組 目標 振り返り	中期取組目標の中で「子どもの主体性を大切に」「地域と連携する」に関しては、職員の意識も高くある程度実現できていると感じる。これら点に関しては、令和5年度以降も引き続き意識して教育活動を展開していきたい。一方、「主体的・対話的な授業づくりを推進し、基礎・基本を確実に身につけ、学力の向上を図る」に関しては、成果が見られるとは言えない。全国的な学習状況調査や横浜市学習状況調査等の結果を見ても、基礎・基本の確実な定着と学力の向上が必要である。令和4年度は校内重点研究テーマを「言葉による見方・考え方を働かせる」として授業研究を行った。その成果と課題を踏まえ、校内重点研究を中心とした基礎・基本の確実な定着と学力の向上を目指していく。		

重点取組分野	令和5年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	【相手意識・目的意識をもって言葉による見方・考え方を働かせることで、目的に応じて言葉を自覚的に用いる能力を育成します】言語環境を整え、言葉を豊かにする手立てをすることで、意味を理解している語彙の量を増やし、語句のまとまりや関係、構成や変化についての理解を深めて語彙の質を高めていきます。		
豊かな心	【一人ひとりが居場所をもって生活できる学校・学級をつくります】①ブロック学年、縦割り学年を中心に全校集会、全校遠足、交歓給食といった縦割り活動を行います。②道徳の授業と日常生活がつながり、生活に生かせるようにします。③各教科の授業を通して、意見交流を大切に、「分かる」「できる」を目指し、互いを認め合う学級風土をつくります。		
健やかな体	【心身ともに健康的な生活習慣を身につけ、健やかな心と体を育みます】①体力向上のために、縄跳びランニングを中心とした体力づくりを継続的に取り組みます。②年1回の学校保健委員会で生活習慣や健康に関するテーマについて取り上げ、日常的に取り組みます。		
地域連携 学校運営協議会	【地域と連携しながら、地域の一人としての子どもを育てていきます】①地域の「人、もの、こと」と関わりあいながら、授業づくりを行います。②学校運営協議会を中心として、地域の意見を取り入れながら、より充実した教育活動を行います。③学校だよりやホームページ等を活用して、学校での取組を地域に広く発信します。		
児童理解	【児童一人ひとりに向き合い、家庭などと連携を図りながら、児童理解をします】①地域訪問、個人面談、懇談会などで、児童の様子や情報を共有を行い、児童・保護者の思いや願いを聞き取り、実際の指導に生かします。②多様な児童に対応するために児童理解に関する研修等を行います。		
いじめへの対応	【いじめを未然に防止するとともに、いじめに対しては迅速に組織として対応します】①日頃から児童理解に努めるとともに、いじめアンケート、YPアセスメント、いじめ防止対策委員会を活用し、いじめを未然に防止します。②いじめ防止基本方針を全教職員が共通理解し、組織的に対応します。		
特別支援教育	【一人ひとりの実態や特性に合わせた特別支援体制を整えます】①特別支援コーディネーターや児童支援専任が窓口となり、スクールカウンセラーと保護者をつなぎ、児童や保護者の困り感を軽減していきます。②担任だけでなく、関係職員との情報の共有を図り、職員全体で連携して支援していきます。③療育センターや保土ヶ谷養護学校のセンター的機能の活用など他機関とも連携していきます。④特別支援教室を活用していきます。		
人権教育	【自他のよさを見出す子どもを育てます】①地域や社会と関わる体験を通して、様々な人がいることを学ぶ機会を増やします。②たてわり活動を通して、子どもたちが互いを思いやる気持ちを育てます。③教職員の人権研修を行い、人権感覚を高めていきます。		
安全管理 安全教育	【安全管理体制を整えるとともに、子ども一人ひとりが安全に行動できるようにします】①実際の災害に生かせるよう、実践的な避難訓練を行うとともに、毎回の避難訓練を検証し、次の避難訓練に生かします。②各学年の発達段階に応じた安全教育を行います。③警察や消防など、他機関とも連携し、教職員の安全研修を充実させます。		
人材育成 組織運営	【教職員一人ひとりが教職員としての自覚をもち、自己研鑽に励みます。教職員が子どもと向き合う時間を確保するために業務の効率化を図ります】①学年内で情報共有の時間をとり、様々な課題に対して学年や学校内で組織的に対応します。②権太塾や重点研究を中心とした人材育成を計画的に進めます。③今までの業務を見直し、子どもと向き合う時間を増やします。		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			

重点取組分野	令和6年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
地域連携 学校運営協議会	c4		
児童理解	c5		
いじめへの対応	c6		
特別支援教育	c7		
人権教育	c8		
安全管理 安全教育	c9		
人材育成 組織運営	c10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			